

先輩たちが
案内してくれるから
わかりやすい、
聞きやすい

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

今年度のオープンキャンパス日程については
受験生サイトをご確認をお願いします。

受験生サイトはこちらから



経済学部の 「K-mics」

経済学部は、企業や地域社会が抱える
現実の課題解決にチャレンジする
「K-mics」を推進しています。
経済学の多様な研究分野を生かして、
学生の実践的な学びを重視しています。



希望の
進路へ

INDEX

経済学部の「K-mics」	1
入門科目・基礎科目・外国語科目	3
プレゼミナール	4
先生に聞く、 経済学部の社会連携教育	5
経済学部生に聞きました！	7
国際交流助成制度	9
キャリア支援制度	10
卒業生Message	9・10

1年 学びの基礎

学びの導入科目
「経済学入門」「基礎ミクロ経済学」など

キャリア科目
「KGUキャリアデザイン入門」「データサイエンス概論」など

導入教育
基礎ゼミナール：
研究活動に必須の「読む・聴く・書く」力を学修
プレゼミナール：
社会連携教育を通じて
社会の課題と向き合う

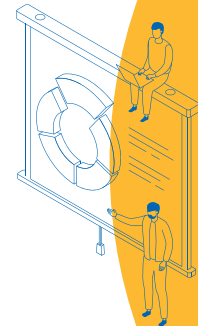
2年～

教職課程
中学校教諭一種
「社会」
高等学校教諭一種
「地理・歴史」
「公民」「商業」

キャリア形成
就職支援センター
資格取得・公務員試験
対策講座など
経済学部
簿記課外講座
資格取得支援制度

4年 卒業論文

4年間の学びの集大成
理論と実践の往復で
問題を見つけ分析し、
提案する力を鍛えて、
卒業論文などにまとめる



興味関心、将来の進路に
基づいた専門科目を中心に
履修するためにコースを選択

産業・
金融 公共
経済 国際
経済

2年次後期から卒業までの2年半、
専門ゼミナールにて研究

実践的な学び

社会の課題と向き合い、
経済学の視点から
解決方法を探る

理論と
実践の
往復

理論に関する学び

教養・専門分野に関する講義
専門ゼミでの学術的な
トレーニング
専門書を読む・論文を書く

K-mics サポーター



「K-micsサポーター」は、
経済学部の教員が取り組む
学習プログラム「K-mics」
および経済学部の成長・
発展を学生の立場からサ
ポート、協力してくれる学
生たちです。

経済学とは？

関東学院大学経済学部を
目指すみなさんへ

経済学部長 吉田 千鶴 教授

経済学とは、社会経済のメカニズムを
究明し、社会のなかで起こる問題を
発見して、その解決方法を探求してい
く学問です。現代のグローバル化の
進展により、各国の社会経済の関係は
複雑化しています。その中で幸せにな
るために、経済学での学びは皆さんの
役に立つことと思います。



入門科目・基礎科目・外国語科目

新入生も安心、大学での学び方や経済学の基礎、レベルに応じた外国語教育を用意

経済学部では、経済や暮らしのしくみを明らかにし、現代社会の課題を解決する力を段階的体系的に修得します。1年次には、「大学での学び方」、キャリア形成など、導入教育とともに、経済学入門などを通じ、現実の経済活動の意味や課題を理解します。また、英語教育では能力別クラスを編成しています。基礎を固めたい人にも、英語が得意でより上を目指したい人にも、レベルアップを目指すカリキュラムがあります。



入門 科目

時間割例（1年次春学期）

	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 時限	文章を書く		経済学入門		
2 時限	KGUキャリアデザイン入門		経済のための数学入門		基礎ゼミナール
3 時限	パソコン入門	法学概論 (国際法を含む)	現代経済	健康スポーツ	英会話
4 時限		フレッシューズ・イングリッシュ		メンタルヘルス論	
5 時限					

1年次の「経済学入門」では、経済の基礎や重要な分野を専門教員によるリレー方式で、経済学の基礎4分野「経済社会の変容」「市場・価格」「国民経済」「国際経済」を学びます。(その他に「現代経済」「プレゼミナール(→p.4参照)」等)

外国語 科目

英語が段階的に上達できるカリキュラムです。英語が得意な人は発信力を段階的に鍛え、不得意な人は英文法の復習や日常会話を学んでいきます。第二外国語はドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハンガリー語があります。



基礎 科目



大学生として必要な文章の書き方、レポートに必須の文献の引用方法や執筆する上での情報リテラシー、パソコンの使い方等の基本的なスキルや、専門科目の基礎を学びます。([基礎ゼミナール][パソコン入門]、専門基礎科目等)

プレゼミナール

グループワークで、自治体や企業からの課題解決を目指す



自分たちの考えが通じたこと
それが何よりの喜びです

高見澤 綾花さん

私たちのテーマは近隣自治体の広報戦略において「SNSで若者のフォロワーを増やすためにはどうすれば良いか」です。3人のメンバーでディスカッションをしながら現状の課題を洗い出し、改善案を提示しました。大学生になって初めてのプレゼンテーションでしたから当初は手探りで準備を始めました。メンバーと各担当を決め、なんとか完成はしたものの、仮報告会で他グループの発表を聞いて、最終報告会には選抜されないだろうと考えていました。結果、特別賞を頂いた時は驚きで一杯でした。経験も知識もまだ浅い自分たちの考えが、先生や近隣自治体の方に通じたことが何よりも嬉しかったです。この受賞経験は、自分の考えに対しての大きな自信に繋がりました。

1年次秋学期の「プレゼミナール」は、自治体や企業に協力を得て、課題解決型の授業を行なっています。グループワークを主とし、半年間をかけて自治体や企業から提案された課題の解決を目指し、最後には自治体や企業の担当者と全教員、1年生全員の前で発表を行います。



先生に聞く、 経済学部の社会連携教育

K-micsと経済学部の学び



地域活性化のために
エビデンスのある
様々な政策提言を実施

島澤 諭 教授

私のゼミナールでは秋田県仙北市を舞台に、地域活性化や観光振興、新しい名産品の考案など、都会に暮らし学習する大学生ならではの柔軟な視点で様々な政策提言を行っています。財政学だけではなく関東学院大学経済学部で習得した多様な知識をベースに、エビデンスのある説得力を持った提言を行うよう心がけています。



日本が直面する
社会課題の解決策を
自分自身で考える

福田 紫 講師

人手不足や空き家問題など、現在の日本は少子高齢化が起因する様々な社会課題に直面しています。まずはこれらの社会課題を統計データや新聞・雑誌で学びます。ゼミナールでは座学で得た知識を基に、現地調査や自治体職員の特別講義から課題に対する取り組みを知り、社会課題の解決策を自分自身で考え、問題の本質に迫ります。



日本史とは
人間社会の展開過程を
考える学問

河内 春人 教授

日本史は原因と結果を照らし合わせて、人間社会の展開過程を考える学問です。「なぜ」と問い、どのような影響を及ぼしたのか考えることで「今」という時代が理解できます。時代が違えば同じ日本でも文化が違います。それは現在の常識を当たり前と思っている自分の考えを相対化するものであり、考え方の拡がりに繋がります。

横浜市金沢区の
実際の課題を考察し
研究成果を発表

野中 康生 教授

専門ゼミナールにおいて、2年生は横浜市金沢区の協力を得ながら、区の具体的な社会課題について考えます。その研究成果は金沢区の担当者をお招きした成果報告会で発表します。3年生は、この経験を活かして地方自治体の社会課題に関する調査研究を行い、その成果を他大学との交流の場で報告・討論に取り組みます。



「あなたならどうするか」
双方向のプロセスで
徹底的に考える

松本 武洋 教授

「環境と公共政策」では、過去の公害問題を知り、行政や企業の対応の失敗を知るところから始めて、現代的な環境政策やSDGsまで、政策の観点から知識を深めます。将来、企業や行政の担当者として様々な判断をするときに役に立つように「あなたならどうするか」という観点で徹底的に考える双方向のプロセスを通じて学んでいきます。



フィールドワークを
通じて、多文化社会との
関わりを体感

細谷 早里 教授

ゼミナールでは、難民として日本にやってきた方々のためのスポーツフェスティバルの運営、金沢国際交流ラウンジに集う外国に繋がる子どもたちのための企画の立案と運営などに関わります。まず、「難民」の存在や日本で働く外国人の増加、その背景となる国内外の情勢について学び、多文化社会にまつわる理論などを学びます。活動後には、振り返りを行い、多文化化している日本社会との関わり方について議論します。



関東学院大学は学生数が多く、違う考えを持った人とたくさん知り合うことができるのは、魅力のひとつです。生徒一人ひとりが持つ課題について一緒に解決策を話し合えるような教員になりたいと考えているので、たくさんの人と関わることや、多様な考え方の理解を深めるためにジェンダー論等、人々の心情や特性について学ぶことにも積極的に取り組んでいます。グループで映像を制作する「ソーシャルデザイン」は、編集スキルも学べますが、何より学生同士で話し合いながら自分たちで納得のいくものを作り上げていく過程が楽しい授業です。



生徒一人ひとりが持つ
課題を一緒に話し合える
教員になりたい

川野 翔人さん
(教職課程履修者)



経済学部生に
聞きました！

横浜
学ビ
ミクス
Yokohama Manabinomics



中学校教諭一種〔社会〕、高等学校教諭一種〔地理歴史〕〔公民〕〔商業〕
の4つが取得できるのは、神奈川県で2大学のみ！(2024.5.1現在)

資格取得支援制度

経済学部生の資格取得、公務員や教員等の就職を奨励する制度です。TOEICや英検、簿記、ファイナンシャル・プランニング、宅地建物取引士等の資格取得や、公務員や教員に就職が内定した学生には報奨金が支給されます。対象となる資格を複数取得した場合は、それぞれ申請することができます。



小林 優斗さん

TOEICで735スコアを獲りました。大学在学中に何か資格を取得しようと考え、実用性も考慮した結果、TOEICの高スコアを獲得しようと思い立ちました。TOEICは英語の授業に応用できたり、勉強するだけスコアに反映されるので、楽しみながら学べました。

教職課程

関東学院大学では、中学校や高等学校の教員を目指す皆さんを応援しています。なかでも経済学部では、教職課程において「商業」の教員免許を習得することができる神奈川県内で数少ない大学の1つです。教職経験者の教員が教員実習や採用試験のサポートをしたり、DVDを用いた採用試験対策、高大連携などで全学的にも教職課程で学ぶ学生を支えています。



卒業生
Message

本郷 大地さん (2021年卒業)
川崎市立長沢中学校 社会科 常勤講師

多くの学校行事が行われるため、常にそれら行事に向けて動いています。目の前のことで精一杯になり、先を見通すことが大変です。それでも行事を生徒たちと一緒に作り上げていく過程の中で、彼らの成長が感じられて楽しいです。採用試験については、教職経験者の先生に小論文や場面指導を見てもらってアドバイスをいただくことが1番効果的だと思います。



企業の経済活動を深く知るために
日商簿記2級にも合格

佐藤 博樹さん (教職課程履修者)

大学4年間はあっという間です。「自分は将来何をしたいのか」を見つけ、目標を定めることが大切です。目標達成に向けて大学生生活を計画すれば、より有意義な時間になります。私の目標は高等学校商業科の教員です。商業高校で学んだ企業の経済活動についてもっと深く知りたいという理由から2年次から産業・金融コースを選択し、日商簿記検定2級の資格も取得しました。外国にルーツを持つ子どもたちと交流する授業で学び、経験したことは、歴史的背景を理解し、多文化理解を促進するきっかけにもなっています。



経済学を学ぶことで
生産者の視点も身に付く

新藤 匠さん

専門科目で好きなものは、ゼミナール全般、近代経済学史、中小企業論です。特に、中小企業論は面白いと感じました。中小企業の特徴や成り立ち、社会における役割などを学び、新しい視点を得ることができました。ゼミナールでは、先生の解説を聞き、ゼミ生同士で話し合いながら授業を進めます。発表もありますから、現在原稿作りに奮闘しています。これまで、商品の値段を消費者の立場でしか考えてきませんでしたが、経済学を学ぶことで生産者の立場からも考えられるようになり、なぜこの商品がこの値段なのか理解できるようになりました。



国際交流助成制度

海外留学や語学研修に挑む学生をサポート、
参加者に助成金を支給

以前から海外に関心があったことに加えて、留学費用の一部を補助していただける制度があったので、入学後は迷わずに語学研修への参加を決めました。留学先は大学連携の学校なので安心感があり、渡航前の特別授業も役立ちました。留学先ではリスニングやスピーキングのほか、絶滅危惧種の動物を調べてレポートにまとめるリサーチスキルという授業を受けました。大学の始業式やクラブの勧誘会等の学校イベントにも参加して海外の大学の雰囲気を肌で感じる事が出来たのはとても良かったです。休日には世界で一番星空が綺麗な湖に行きました。ホストファミリーも良い人たちで、学校であったことをいつも楽しそうに聞িয়েくれました。また、様々な国の友人ができました。勉強だけではなく、海外での生活を実際に体験できたのは、かけがえの無い経験です。



西山 尚輝さん

キャリア支援制度

自分の将来は、自分でデザインする

3年生の春になっても就きたい職業は明確にはありませんでした。就職支援センターを初めて利用したのは3年生の夏です。少し焦りもあり、自分から行動しないと状況は変わらないと感じていたので、その時から合計7回ほど利用しました。右も左もわからない自分に対して就職活動の事を丁寧に教えてくださり、就活の流れを知ることができました。流れを知ることです活のイメージが湧いてきて、それからの就活にとても役に立ちました。関東学院大学のキャリア支援の良いところの一つは、就職支援センターの個別相談用カウンターで、学生ひとり一人に丁寧なサポートをしてくれることです。また、KGU就職支援センター公式LINEから様々な学内イベントの情報が入手できます。キャリア支援のおかげで、複数社から内定を頂くことができ、無事に就職先も決定しました。



石塚 悠樹さん

卒業生 Message

大学で学んだ知識と体験を活かして

株式会社すかいらくホールディングス 代表取締役会長 谷 真さん (1977年卒業)

たに・まこと：1951年生まれ、富山県富山市出身。小学生の頃から山登りを始め、大学まで続けた。マネジメントの基礎を山小屋で学んだという。1977年関東学院大学経済学部卒業後、「すかいらく」に入社。「イエスタデイ」事業部副事業部長などをはじめ要職を歴任。2008年、すかいらく代表取締役社長に就任、顧客志向のレストラン経営に取り組んでいる。



私は子どもの頃から山が好きでした。大学に入ってから、かなりの時間を山小屋でのアルバイトに費やしていました。雪の中から小屋を掘り起こすことから始まり、シーズンともなれば1日に何百人という登山客の世話をする…。飯炊きに明け暮れる日々でしたが、その中で学んだことは、人に喜んでもらうことの喜びや、チームで働くことの楽しさでした。山小屋のやりくりを通して「経営」ということへの関心が高まったのもこの頃です。そもそも、関東学院大学へは建築を学ぶために入学しました。しかし山小屋で芽生えた思いが高じ、結局2年終了時に経済学部へ転部、2年生をやり直すことになりました。そして、これが経営者としての私の原点となったのです。

素晴らしい先生との出会いもあり、私の大学での学びは「ゼミ」に集約されます。経営戦略や長期経営計画などを学びましたが、印象的だったのが、外食産業の持つ大きな可能性について学んだことです。元々、私の中には山小屋で培われた「人に喜んでもらう仕事したい」「人とじかに接する仕事したい」という強い思いがありました。この思いと、ゼミでの学びがフィットし、当時、まさに成長期を迎えようとしていた外食産業「すかいらく」入社へと突き進んでいくことになるのです。この時の情熱は、経営者となった今でも、私の大きなより所となっています。大学で学ぶことには大きな意味があります。最も大切なことは、実体験と学びが結び付いたときに、問題解決や物事を判断する力、つまり、クリエイティブな考え方が養われる、ということではないでしょうか。海に面し、キラキラと輝くような空気感のある明るいキャンパスと、形式にとらわれず本質を重んずる自由な校風が、きっと後押ししてくれると思います。

卒業生 Message

自分の考えをまとめ、人に伝える力がキャリアに役立っています。

ALH株式会社 中垣 知奈美さん (2018年卒業)

なかがき・ちなみ：2018年3月関東学院大学経済学部を卒業後、神奈川県内のインテリアメーカーにて、人事(採用・研修)・総務・広報業務に従事。2022年8月よりALH株式会社にシステムエンジニアとして勤務。将来的に人事部門でのキャリアを目指している。



大学時代を振り返ると、主にゼミナール活動を通じて「自分の考えをまとめ、その根拠を調べ、人に伝える」機会が本当にたくさんありました。卒業論文はもちろん、課題発表や日経ストックリーグ、ビブリオバトル、はたまたゼミ卒業旅行の計画など…考えて伝える＝企画提案することは、社会人になっても多くあります。例えば、上司に「〇〇がしたい」というだけで提案が採用されることは、まずありません。「実現のために必要な予算はどれくらいか?」「実現したのちに得られる効果はどんなものがあるか?」「実現にあたりどんな懸念点・課題・デメリットがありそうか?」など…様々な視点から、視野を広く・視座を高く持って考えなければならないということ、社会人になって実感しました。

その上で、経済学部での「自分の考えを論理立てて、文章・資料・プレゼンなど様々な方法で人に伝える経験」は、視点を多く・視野を広く持つこと、そして元々人前で話すことに苦手意識があった自分にとっては「慣れ」という点においても、大学時代に色々な形で経験できたことが社会人になって活かされていると感じます。もし、大学進学や将来の就職活動で「やりたいことが分からない」と悩むことがあったら、とにかく色々な人の話を聞いてみる!ことをお勧めしたいと思います。学校の先生・友達・先輩、大学・企業の方、近くにいる大人の方など…色々な人の経験や考え方をインプットすることで、自分の中の知識＝選択肢が増えていきます。それを整理していくと、大学や企業選びの「軸」となる「やりたい事」や「譲れない条件」、「なりたい将来像」がおのずと見えてくると思います。